

(報告書)

第11回福大生による東アジア映画字幕制作・成果発表会について

間 　　ふ 　　さ 　　子

1. 第11回成果発表会について

2009年より始まった福大生による東アジア映画字幕制作・成果発表会は2018年の発表会で10回目を迎えた。10年を節目として活動を一旦区切ることも考えたが、学生から継続の要望が出されたこともあり、検討の結果やれる条件のあるうちは勉強会を続けようということになり、2019年9月28日（土）に第11回の成果発表会をエルガーホール7階の多目的ホールで開催することができた。今回も前年同様、中国映画のほかに日本の劇映画（短編）1本に中国語の字幕を付けたものを上映した。さらに今年度は、9月上旬に上海財経大学を訪問し、我々が付けた中国語字幕付きの日本映画を中国の大学生に鑑賞してもらい、字幕および映画の内容について日中の学生でディスカッションを行った。成果発表会ではその研修について参加した学生が報告を行った。これはこれまでの活動の基礎の上に新たに積み上げられた新しい成果だと評価したい。

今回上映したのは上述の中国の長編劇映画1本と日本の短編劇映画1本である。劇映画は、学生の有志が参加する一年間の勉強会を経て日本語字幕を制作した中国映画「万紫千紅總是春」（日本語タイトルは「女性たちの紅い春」とした）、日本映画は今回も福岡インディペンデント映画祭代表の金石智宏氏からご紹介いただいた加藤大志監督作品「きらわないでよ」（中国語タイトルは《别讨厌我，好吗》とした）である。

話はややそれるが、上海財経大学における研修ではLTDと言われる話し合い学習法を使ってディスカッションを行った。LTD（Learning Through Discussion）とは1960年代にアメリカで始められた学習法で、一定のステップに従ってテキストの予習を行い、それをベースとして予習と同じ段階を踏んでグループディスカッションを行って、テキストに対する理解を広げ深めていくものである。これは主に文字テキストの読解のために開発されたものだが、筆者はこの学習法を映像テキストの理解にも応用できると考え、ステップを少しアレンジして授業で実践してきた。このLTD学習法はグループのメンバーが多様であればあるほど話し合いが活発化して互いに刺激を与えあうことがこれまでの経験で体感的にわかっている。今回の上海財経大学でのグループディスカッ

ションは時間の制約もあり、普段よりさらにコンパクトにしたやり方で行ったが、それでも日中の学生の考え方の違いがよく分かって、各グループとも短いながらも有意義な話し合いができたと思う。

以下、今回の成果発表会について簡単ではあるが概要をまとめておきたい。

2. 実施報告

2-1. 事業名

第11回福大生による東アジア映画字幕制作成果発表会

2-2. 概要

このプログラムは、人文学部東アジア地域言語学科の有志学生と教員が協力して、1950、60年代の作品等、普段あまり見ることのできない韓国・中国映画に日本語字幕を付け、その成果を市民に公開しようと2009年から始めたものである。11回目に当たる本年は1959年制作の劇映画1本に日本語字幕を付け、さらに2014年制作の日本映画に中国語字幕を付けて上映した。この事業はアジアフォーカス・福岡国際映画祭2019協賛企画である。

2-3. 内容

- (1) 日時：2019年9月28日（土）
- (2) 会場：福岡天神エルガーホール7階多目的ホール
- (3) 主催：福岡大学人文学部東アジア地域言語学科
- (4) 協力：福岡大学工学研究科資源循環・環境工学専攻
- (5) 後援：福岡市
- (6) プログラム：13：00 開始
13：00 日本映画「きらわないでよ（別讨厌我，好吗）」上映
13：25 学生による活動報告
13：50 中国映画「万紫千紅總是春（女性たちの紅い春）」上映
15：45 終了
- (7) 入場料：無料
- (8) 上映：プロジェクタ投影

2-4. 上映作品

- (1) 日本映画「きらわないでよ（別讨厌我，好吗）」

2014年、監督：加藤大志、福岡インディペンデント映画祭2015グランプリ作品25分（中国語字幕）

- (2) 中国映画「万紫千紅總是春（女性たちの紅い春）」
1959年、監督：沈浮、脚本：沈浮・瞿白音・田念萱、
主演：張瑞芳・沙莉・陳立中・孫道臨、上海海燕電影
制片廠制作115分（日本語字幕）

2-5. 参加者数

のべ123名。

2-6. 配布物

- (1) チラシ（大学公式ホームページおよび学科ホーム
ページにも掲載。）
(2) リーフレット（当日会場にて配布。後掲。）

2-7. 情宣・報道など

- (1) アジアフォーカス・福岡国際映画祭公式HP
(2) 福岡大学公式HP
(3) 福岡大学人文学部東アジア地域言語学科HP
(4) Fula語学学習会FACEBOOKページ
(5) 西日本新聞2019年9月20日朝刊
(6) 読売新聞2019年9月26日朝刊

2-8. 観客の感想（全26通、のべ87件）

- (1) 日本映画「きらわないでよ（別讨厌我，好吗）」に
関するもの：33件
(2) 中国映画「万紫千紅總是春（女性たちの紅い春）」
に関するもの：40件
(3) その他全般的なご意見：14件
詳細は後掲。

2-9. 字幕制作参加者

教員：4名。

学生：人文学部東アジア地域言語学科在校生 11名、同
卒業生1名、商学部在校生1名、計13名。

内訳は以下の通り。

1年次	2年次	3年次	4年次	OB	留学生	計
0	0	6	6	1	0	13

※準備期間が2018年度後期から2019年度前期に亘ったた
め、学生の学年は2019年度現在のものを示した。OB
にはそれ以前の卒業生を含んでいる。

3. 字幕制作について

3-1. 中国映画

中国映画については、基本的に前年と同様のスケ
ジュールを進めた。

- (1) 第10回発表会(2018年9月)を終えた翌10月から、
今年度の作品「万紫千紅總是春」のセリフの読み合
わせを週1回（月曜4限）の勉強会として行い、第
1場から第9場まで、中国語のセリフを口頭で翻訳
したのち、配当字数に合わせてその場で日本語字幕
を付けていった。2018年後期の勉強会のメンバーは
全員が二年生（2017年入学学生）であった。参加
者のほとんどが2018年2月に中国・韓国に向けて交
換留学に出発し、2019年前期は、入れ替わりに交換
留学から戻ってきた四年生（2016年入学学生）が勉
強会に参加した。2019年度の勉強会は毎週水曜4限
に行い、前期は主として第10場以降の台詞の読み合
わせを行った。やり方はこれまでと同様、中国語字
幕つきの映像と中国語のセリフを投影するパワーポ
イントを組み合わせ、一つ一つのセリフを読み、意
味を確認していくというものである。読み合わせ後
は各シーンを一人が担当して日本語訳を作った。こ
のセリフの読み合わせは2018年7月上旬まで行われ
た。

- (2) 7月の試験終了後、学生メンバーが数分間ずつ分
担し字幕の初稿を作成した。
(3) 本学の研修施設やまなみ荘が使用できなくなった
ため、8月下旬にその時期たまたま空室となってい
た教員所有のマンションの一室にて2泊3日の集団
推敲合宿を行い、そこで「万紫千紅總是春」のゼロ
号を完成させた。
(5) 9月は主としてリーフレット制作を行った。
(6) 発表会当日は、受付や司会、案内などを学生が担
当した。

今回も時間割の関係上、平日に一年から四年までの学
生が一堂に会して勉強する時間を確保することができな
かった。そのため前回と同様、1月末の時間割編成の際
に二年次から四年次までが揃うことのできる時限を1コ
マ確保し、そこで勉強会を行った。今回はやまなみ荘の
合宿ができなかったため一年生に対して合宿参加を呼び
かけることが叶わなかったのは残念である。やまなみ荘
の閉鎖が学生の課外活動に与える影響は少なからぬもの
があると実感した。なお推敲合宿にはOBが1名参加し
てくれた。上級生の経験を下級生と共有し引き継いでい
けるかどうかは今後の課題になると思われる。

3-2. 日本映画について

日本映画については、昨年同様、当方のマンパワーの
問題や著作権の問題などを考慮して、学生にふさわしい
短編作品を紹介していただくよう、福岡で自主上映作品
の紹介に尽力しておられる福岡インディペンデント映画
祭の関係者にお話し、作品を紹介していただいた。

- (1) 6月始めに、候補作品「きらわないでよ」をご紹
介いただき、加藤大志監督の許可を得た。さっそく

勉強会参加者で作品を鑑賞し、内容について意見を交換した。

- (2) 今回は前回とは異なり、中国映画の字幕勉強会に参加している学生で初稿作成を分担し、それを本学科の中国語ネイティブスピーカーの教員が添削した。
- (3) 8月16、17日に本学文系センター棟にて推敲作業を行い、最終的に中国人教員が整えた。
- (4) 9月9日～12日に本学科の学生40名と教員4名が参加して上海に3泊4日の研修旅行を行い、11日には上海财经大学で外国語学院日語系の学生と交流授業を行った。その際我々が中国語字幕を付けた日本映画「恋する河童」（井上博貴監督2014年作品、2018年第10回成果発表会で上映）および「きらわないでよ」を鑑賞し、後者の内容についてLTDを行った。

4. 成果発表会当日について

今回も例年同様エルガーラホールの多目的ホールをお借りした。ただこのホールは大型のスクリーンが備え付けではないため外部から調達せざるを得ず、その分の費用が嵩む。とはいえ、上映するのが古い映画で、映像そのものが十分にクリアではないことから、上映効果を確保する意味でも大型スクリーンの使用はぜひ継続したいところである。

過去の発表会において当日お客様から決まって出る注文は、前の人の頭が邪魔になって字幕が見えにくい、ということである。

そのため今回も前回同様、椅子は観客が自由に位置を調整できるよう咬ませないで置いていただいた。また過去に観客からいただいたアドバイスに従ってプロジェクタの周囲に椅子を置かないようにもしている。さらに字幕がなるべく上に出るよう、画面に向かって右側に縦書きで表示し、1行の文字数を極力抑え、極力画面上部に出すよう気を配った。

中国が特別な国ではなくなっていることを反映してか、観客数はここ数年あまり伸びていないが、毎年楽しみに来場して学生を激励して下さる方も多く、大変ありがたいと思っている。なお、上にも記したように、リーフレットの作成はもとより当日の受付や司会、放映などの作業は、勉強会に参加している学生が行った。今年は前述したように、上海研修旅行の報告も学生がパワーポイントの資料を準備して行った。

5. 当日配布したリーフレット

今回も学生と教員の共作でリーフレットを作成し当日の来場者に配付した。内容は以下の通り（後掲資料参考）。

- (1) 大澤武司「革命中国と「半边天」」
- (2) 間ふさ子「『女性たちはどう生きるか』」
- (3) 甲斐勝二「『万紫千紅総は春』をめぐって」
- (4) 謝平「『やばい』の中国語訳はやばかった」
- (5) 種村理恵「字幕の役割について」
- (6) 上海研修旅行
- (7) アンケート結果
- (8) 登場人物関連図
- (9) 映画字幕勉強会参加者の感想（田口祐希、増永奈央、渡辺巧、太田梨沙、山田実奈、満永みなみ、渡辺瑞葵、沖田啓吾、原田優季、平野智菜美、廣田涼菜）

6. 観客の感想（順不同、記述のまま）

6-1. アンケート回答者総数

26人（うち男性7人、女性10人、回答なし9人）

6-2. 世代別人数

20代…5人
30代…2人
40代…1人
50代…5人
60代…7人
70代…4人
80代…1人
回答なし…1人

6-3. 観覧作品

- ①日本映画「きらわないでよ《別讨厌我，好吗》」
 - ②中国映画「万紫千紅総は春《女性たちの紅い春》」
- どちらも観覧…17人
- ①のみ…2人
 - ②のみ…5人
- 回答なし…2人

6-4. 日本映画「きらわないでよ《別讨厌我，好吗》について

6-4-1 作品について

- ・論文の材料として適切でした。
- ・短い映像の中で思春期の心の揺れ動きをきちんと描いた良い作品だと思った。シーンの一つ一つの意味を考えて討論し、結論を出していることに感心した。（20代・女性）
- ・短い時間で深く考えさせられる話だった。（20代・女性）
- ・短編で意味心でした。（60代・女性）
- ・日本人の同調意識といじめについての確に表現されていて、作品として素晴らしかった。また、それに抗おうとするも保身に走る、ある意味日本人

- らしさが如実になっていた。(20代・男性)
- ・考えさせられる作品でした。(50代)
- ・様々な観点から観ることができ、考えることができる作品だと思いました。(30代)
- ・25分で扱うには重いテーマではないかと感じましたが、とても綺麗にまとまっていて驚きました。「きらわないでよ」というタイトルもエリと悟どちらの言葉なのだろうかとか色々なことを考えさせられました。(20代・女性)
- ・ストーリーがすごくデリケートな問題に取り組んでいると思った。見る側に宿題のように提案されているように感じた。(50代・男性)
- ・中国語が分からないので日本語で聞いてしまった。(60代)
- ・自分ならどうするだろうと考えさせられる作品だった。私も最後は本当のことを言えずにごまかしてしまうと思う。(20代・女性)
- ・考えさせられました。(60代)
- ・リーフレットにも書いてありましたが、観た人に考えさせる作品ですね。(40代)
- ・日本社会のいじめ問題だけでなく、人の生き方の考えさせる作品だった。(30代・男性)

6-4-2 日本映画に中国語字幕を付ける試みについて

- ・学生時代、第一外国語が中国語でした。より映画の内容が頭に入ってきました。日本に住む中国の方も多く、異文化交流のためにもとてもいい取り組みだと思います。上映後のプレゼンがまた、とても素晴らしかったです。人権教育にも使えるような作品ですね。(50代・男性)
- ・現代語訳の若者言葉(?) ならではの単語の訳しかたが上手いと思った。「やばい」の訳しかたとてもよかったです。(20代・女性)
- ・素晴らしい。
- ・大変だっただろうなあと思いました。中国語が分からないので、日本語だけ聞いてしまいました。(40代)
- ・良かったと思います。(60代・女性)
- ・私の中国語の理解力が足りないものの、どんな表記、表現で場面のことの雰囲気をうつすのか感じることができ、よかった。日本語-中国語の変換の際、微妙なニュアンスの違いに気づけると思うので、とても良い試みだと思う。(20代・男性)
- ・日本語と中国語で表現の仕方が異なるものを制限された時間の中できれいにまとめられていると思った。映像は短い、とても時間がかかったのではないかと思った。素晴らしい。(20代・女性)
- ・こういった中国語になるのかを同時に楽しめるため、今後も続けてもらえればと思います。(30代)

- ・とても素晴らしいと思います(60代・男性)
- ・とても有意義なことだと思います。ただ、映画に集中すると、なかなか字幕が追えなくて…(50代・男性)
- ・とてもいいと思います。わかりやすかったです。(20代・女性)
- ・とてもいいと思います。(50代・男性)
- ・今の子はアニメに興味を持っているので、もう一歩進めて吹き替えもやってみたらどうか(日本語字幕)(60代)
- ・ぜひ今後もお願いします。(60代・女性)
- ・素晴らしい挑戦だと思います。いろんな方面から言葉や文化を勉強できてとても意義があると思います。(70代)
- ・曖昧な日本語を外国語で表すのは難しそうだが、工夫されている様子が伝わった。(20代・女性)
- ・今の若者言葉を訳するには大変だったと思います。(60代)
- ・どんどん作って欲しい。(50代)
- ・時間の都合で観ませんでしたが、いかなる状態で中国語字幕が入っているかぜひ観てみたいです。(70代)

6-5. 中国映画「万紫千紅總是春(女性たちの紅い春)」について

6-5-1. 作品について

- ・社会主義の理想と党のリーダーの働き、そして、各家庭の葛藤などとても生き生きと描かれていて素晴らしい作品でした。(50代・男性)
- ・同じ世代や性別間でも変化を受け入れるか否かで思考が違って、どう説得していくかが見えて面白かったです。(20代・女性)
- ・中国の女性に関する映画を観て、最近の中国における女性の社会的地位が気になった。(30代・男性)
- ・出てくる女性が皆働くことに積極的で現代的に思えた。妻と母親の仲を取り持つ男性も大変そうだった。(20代・女性)
- ・時代を感じて懐かしかった。
- ・いつの時代もどこの国でも女性の社会進出はテーマになるのだと感じました。(40代)
- ・感動しました。良かったと思います。(60代・女性)
- ・女性の働くことにある苦悩、男性や古い考えにも屈しようとする意志をととても感じられる作品でした。(20代・男性)
- ・女性の社会進出をイキイキと描く素敵な作品でした。張瑞芳を始め、役者群も素晴らしかったです。(30代)
- ・ストーリーはわかりやすく、セリフも聴き取りやすい。字幕付けの練習には最適の映画だと思います

- した。(50代・男性)
- ・当時の事情がよく分かりました。(80代・男性)
- ・わかりやすい内容でとても面白かったです。(20代・女性)
- ・映画はあまり面白くなかったが、字幕はとてもスムーズで良かった。
- ・あの時代のことをいろいろ思いました。(70代)
- ・当時の中国の時代委背景や生活の様子がよく分かる作品だった。(20代・女性)
- ・面白く見ることができました。画像も悪くはなかったです。(70代)
- ・女性は強い。(60代・女性)
- ・よかったです。(60代)
- ・ちょっとプロパガンダのだけど女性の自立というのを生活の中で描いていていいと思いました。(60代・男性)
- ・古めかしい中にも、趣が感じられた。(50代)
- ・途中入場で少々人物関係が最初のうち分かりませんでした。終盤でおおよそ理解できました。(70代)

6-5-2. 字幕について

- ・とても映画のテーマに合った字幕で、素晴らしかったと思います。長編の作品、快適に見ることが出来ました。ありがとうございました。(50代・男性)
- ・一人称の使いわげが上手いと思いました。(20代・女性)
- ・OK！
- ・分かりやすかったです。お疲れ様でした。(40代)
- ・とても分かりやすかったです。(60代・女性)
- ・直訳でなく意識で字幕を作っていて皆さんの頑張りが伝わった。名前の読み方などのルビが付けられたらいいと思った。(20代・女性)
- ・分かりやすかった。(50代)
- ・文章を訳するより、音声を訳する方がとても難しいと思うのに、物語のストーリーや感情に没入できるほど素晴らしかったです。(20代・男性)
- ・右たてだったので見やすかったです。(30代)
- ・お疲れ様でした。(50代・男性)
- ・よく分かる字幕でした。素晴らしい努力でした。(80代・男性)
- ・分かりやすかったです。色々考えて付けられた字幕なのだということが伝わってきました。(20代・女性)
- ・これも吹き替えでやれば面白いと思う。(60代)
- ・とても自然ですっかり見入ってしまいました。(70代)
- ・分かりやすかった。(20代・女性)
- ・よくできていたと思います。自然でした。(70代)
- ・わかりやすかったです。(60代・女性)

- ・よく分かりました。(60代)
- ・まだまだ中国語は理解できないのでよく分かってよかったです。(60代・男性)
- ・もしこの作品がバリアフリー映画としての扱いの元に、中国語字幕が入ったとしたら、私としてはそれにすごく興味があります。(70代)

6-6. その他の意見

- ・上海研修とてもいい取り組みですね。成果発表の場やアンケート結果の発表などもあり、よかったです。(20代・女性)
- ・もっと見たいです。(50代)
- ・仕事を早く切り上げて同僚に頼んで、高速を使って駆けつけましたが、10分弱遅刻してしまいました。できれば14:00頃から始めてくださるとありがたいです。毎年楽しみにしています。(50代・男性)
- ・学生の皆さんお疲れ様。間先生ありがとうございました。(70代)
- ・これからも続けてください。(60代・男性)
- ・「きらわないでよ」内容について解釈を聞いたのが良かった。中国人・日本人双方の違い(いじめや恋愛について)は興味深かったです。(40代)
- ・全体的に良かったと思います。(60代・女性)
- ・映画の作成場所や、監督の思いなども聞けたらよりいいのかなと思いました。(20代・男性)
- ・毎年、気になってはいましたが、なかなか時間が合わなくて来られませんでした。今回初めて見させていただき、いい刺激になりました。(50代・男性)
- ・今後もこのような作品をみせさせてくださることを期待しています。(80代・男性)
- ・お疲れ様でした。(20代・女性)
- ・字幕のフォントを再考下さい。明朝体では見にくいと思う。
- ・学生の発表が交流だけなのが残念。字幕制作のことについて話すべきでは？(50代・男性)
- ・学生の皆さんの力に感服しました。ありがとうございました。すごい刺激です。(70代)

7. おわりに

今回の成果発表会は昨年に引き続き、学生たちが中国映画の日本語字幕と日本映画の中国語字幕作成に挑戦した成果を見ていただいた。さらに上海研修旅行についての学生のプレゼンを聞いていただくことも出来、内容的には例年と遜色ないものになったと自負している。

最近の学生は学業とアルバイトの両立に忙しく、このような勉強会に参加したくてもなかなか時間を作れない

人が多い。単位化して学科の授業に組み込んでどうかというご助言をいただくこともあるが、我々は、あくまで学生が強制されてではなく自分の判断で参加してくれることに価値があると考え、勉強会という形にこだわって続けてきた。今後情勢の変化でいろいろな工夫が必要になってくる可能性は高いが、この活動は在校生の語学教育、キャリア教育、卒業生のリカレント教育、異文化理解、地域貢献、国際交流などいろいろな面でさまざまな展開が可能なものであることを時が経つにつれ実感してきている。その可能性をいかにピピッドに実現しているか、それは今後の我々の覚悟と工夫、そして努力にかかっている。

今年も学科予算として会場費や合宿の際の必要経費を学部から出していただいた。貴重な学部の予算を使わせていただいていることを肝に銘じて、今後も学生の積極性を喚起し、卒業生や学外の協力者とも協力してより一層努力を重ねたい。

参考資料

- 一、第11回福大生による東アジア映画字幕制作成果発表
会リーフレット
- 二、読売新聞2019年9月26日記事

第11回 福大生による 東アジア映画字幕制作 成果発表会

入場無料・予約不要

2019年 9月28日（土）

13:00～15:45（12:45開場）

福岡天神大丸エルガーラホール

7階多目的ホール

（大丸東館北側入口からどうぞ）

アジアフォーカス福岡国際映画祭2019協賛企画

中国映画・日本語字幕付

万紫千紅總是春（女性たちの紅い春）



日本映画・中国語字幕付

きらわなひでよ（别讨厌我, 好吗）



戴媽媽●老嫂子，是你想错了。

劉大媽●我想错了？

戴媽媽●是啊，你是觉得日子过到顶了，你就怕有人碰了你这个家。可是，是不是日子就到顶了呢？没有啊，老嫂子，更好的日子还在后头呢。彩凤出来参加生产，这是对的，她不光是为了大家，也是为了你家的日子过得更好。

戴媽媽●老嫂子，咱们老一辈的转了一辈子锅台，你还没苦够？你还叫孩子们也在锅台上再拴上一辈子？这好吗，嗯？

サトル●ナナフシ。

エリ●え？

エリ●本当だ凄い。生で初めて見た。

サトル●結構いっぱい、いる。皆、気づかない、だけ。

エリ●そうなんだ凄いな。

サトル●自分、自分を隠して生きのびてる。

主催◆福岡大学人文学部東アジア地域言語学科

問合せ◆092-871-6631（内線4372 間研究室）Facebook:<https://facebook.com/fula1999/>

後援◆福岡市 協力◆福岡大学工学研究科資源循環・環境工学専攻

革命中国と「半边天」

大澤 武司

「万紫千紅」と「東風」

「女性たちの紅い春」の原題は「万紫千紅总是春」だが、よく知られるように、これは儒教の中興者であり、朱子学の創始者でもある朱熹（朱子）の有名な七言絶句「春日」の結句に由来する。

勝日尋芳泗水濱

無邊光景一時新

等閑識得東風面

萬紫千紅總是春

勝日芳しきを尋ねり泗水の浜

無辺の光景一時新たなり

等閑に識り得たり東風に面すれば

万紫千紅総て是れ春

その意味するところは、「よく晴れた日に春の花を見ようと泗水のほとりへ行った。なにもさえないものがない素晴らしい光景が広がっている。なすべきこともなくただ春の風を感じている。色とりどりの花が美しく咲き乱れている。これぞまさに春である」といったところだろうか。

上海の下町の女性たちが主人公として大活躍する本作品のタイトルとしては、まさにうってつけだ。しかし、中国近現代史を専門とする私としては、どうしてもその直前にある転句の「東風」という言葉が目がいってしまう。

この「万紫千紅总是春」は1959年に制作された映画で、その内容は、1958年春に始まる中国の大躍進運動における都市部女性の労働

参加の紆余曲折を描いたものである。いうまでもなく中国共産党によるプロパガンダ的要素が強い。

大躍進運動は、指導者毛沢東が推し進めた急進的な社会主義建設運動であり、その無計画性や無謀性によって4000万(一説には7000万)を超える餓死者を出した中国共産党の歴史において最大の失政であったとされる。

当時、毛沢東がこのような強引な社会主義建設運動を發動できた背景には、いくつかの要因があったといえる。

まず国内的な要因として、「社会主義社会の早期実現」という革命家・毛沢東の強い政治的野心があった。1949年10月に新たに中華人民共和国(以下、中国)が誕生した時、中国は社会主義国家ではなかった。農業国家であり工業後進国であった中国では、旧来の資本主義社会から新たな社会主義社会にいきなり移行することが不可能とされ、一部、資本主義的なシステムを残しながら社会の生産力を向上させ、労働者階級を強化する中間的な段階、いわゆる「新民主主義」段階が必要と考えられていた。つまり、中国は、「新民主主義」国家としてその第一歩を踏み出したのである。当初、このような「新民主主義」段階は20年以上続くと想定されていた。

だが、このような長期的かつ緩慢な経済建設に毛沢東は耐えることができなかった。自分の目が黒いうちに社会主義社会を中国に創り出したいと「熱望」したのであ

る。朝鮮戦争が休戦を迎えた1953年、毛沢東は「新民主主義」国家であった中国の政治・経済体制を社会主義体制に移行させるため、「社会主義的改造」の開始を指示した。初歩的な農業集団化と企業公有化の推進である。

詳細は省くが、1957年6月以降の反右派闘争(中国共産党・社会主義建設に反対する人びとに「右派」との烙印を押し、政治的に粛清した事件)を通じて毛沢東の個人的権威が頂点に達すると、毛沢東が志向する「冒進」的な社会主義建設はさらに加速していった。そして、大規模な農業集団化(人民公社化運動)や土法炉運動(鉄の大増産運動)などを柱とする大躍進運動につながっていった。

一方、大躍進運動の国際的要因として重要だったのが、まさに「東風」であった。朱子の「春日」の転句にある「東風」は本来「春の風」という意味だが、当時の中国においてはこの「東風」という言葉が特別な意味を有していた。いわゆる「東風が西風を圧する」である。

第二次大戦後、国際社会は東西冷戦のまっただなかにあった。社会主義陣営の盟主であったソビエト社会主義共和国連邦は、アメリカの軍事的優勢を覆すべく、1957年秋、人工衛星の打ち上げとICBM(大陸間弾道弾)の発射実験に成功した。端的に言えば、ソ連からアメリカ本土に核兵器を打ち込むことが可能となった、さらには軍事的に社会主義陣営が資本主

義陣営を逆転したと毛沢東に信じさせたのである（もともと、その実戦配備までにはまだ相当の時間を要したといわれる）。

1957年11月、モスクワを訪れていた毛沢東は、これらの成功を踏まえ、中国人留学生たちの前で「东风压倒西风（東風が西風を圧倒する）」という勇ましい演説を行い、社会主義陣営の資本主義陣営に対する優勢、さらには社会主義の資本主義に対する優位性を強く訴えた。

まさに当時、大躍進運動は春の暖かい「東風」の祝福をうけながら勇ましく「前進」していくイメージで政治的には描かれたのである。

「半边天」の思想

では、大躍進運動を発動した毛沢東とこの作品が扱う女性の労働への参加、すなわち女性解放とのつながりはいかなるものだったのだろうか。いうまでもなくそれは「半边天」という言葉に集約できる。「半边天」とは「天の半分を支える」との意味であり、より正確に言えば、それは「妇女能顶半边天」、すなわち「女性が天の半分を支える」という毛沢東の言葉に由来するとされる。

全国的な社会主義的改造が推し進められていた1955年、貴州民主婦女連合会はその機関紙に「在合作社内实行男女同酬」（合作社内部における男女同等報酬の実施）という文章を掲載し、「男女同等報酬」を最初に実行に移した貴州省のあ

る村を表彰した。この文章を読んだ毛沢東が、「それぞれの村の合作社でも同じように実施すること」と自ら批示（指示）したという。そして、さらに毛沢東自身が「妇女能顶半边天」というスローガンを提起し、これを全国に広めさせたという。

この最初に「男女同等報酬」を実施したその村は、貴州省の省都・貴陽市の息烽県にあった養龍郷堡子村であったとされる。1950年代半ば、毛沢東が指導する社会主義的改造という社会主義社会の実現を目指す政治的・経済的熱狂のなか、1954年末、堡子村でも農業生産合作社が設立された。

当時、村の多くの男性たちは女性が働くことに反対で、合作社の女性メンバー23名のうち、わずか3~4名しか労働に参加しておらず、その給料も男性の半分に満たなかったという。このような状況が女性たちの労働意欲に悪影響を及ぼし、しまいには労働力不足が原因で合作社全体の食糧にも事欠くようになったという。

このような時、堡子村の農業生産合作社の主任に任命されたのが易華仙女史であった。彼女は「毛沢東主席は、男女は常に平等であるとおっしゃっている。女性も労働に参加しなければならない。そして、男性と同じように仕事を分担しなければならない」と演説したという。そして彼女は自ら合作社のメンバー全員と一緒に農作業を行い、村全体の女性の積極性を引き出すことに成功し、農作物の

生産量の3割増を達成したという。

まさにこの「養龍郷堡子村」こそが、毛沢東の「半边天」というスローガンにつながる文章「在合作社内实行男女同酬」のモデルになった村であったといわれる。今回、字幕製作をした「万紫千红总是春」は、舞台こそ上海という都市部の下町だが、居民委員会の女性主任「戴媽媽」（戴おばさん）が、共産黨員という立場から毛沢東の男女平等主義を町の女性たちに語り、そして組織化（オルグ）していくプロセスが描かれている。それはまさに「堡子村経験」がそのベースにあることがうかがえるのである。

このような背景を踏まえれば、作品の最後、鄭宝卿の妻・蔡桂貞が工場の壁に高々と毛沢東の肖像画を掲げて万感の思いにひたるのは至極自然な描写といえるよう。

女性解放と革命中国

では、この中国共産党、さらには毛沢東の男女平等主義である「半边天」思想の源流はどこにあるのか。直接的なそれは1910年代後半、中国で展開された新文化運動のなかに見出すことができよう。

伝統的に「三従」思想（女性は父・夫・息子に従う）が濃厚であった儒教社会中国において、革命の文脈で「女性解放」が訴えられることは先にも例があったが（例えば太平天国運動における纏足禁止など）、本作品を考えるうえでは、中国共産党の誕生とも時期が重なる、新文化運動期・五四運動期の

「女性解放」の思想を紹介するのが適当と考える。

中国に「新文化」を広げようと、「民主」と「科学」を旗印として西洋思想の紹介につとめた新文化運動は、当然ながら「女性解放」の思想をも中国に紹介した。この運動の主軸を担った雑誌『新青年』は、その第4巻第6号(1918年6月)の「イプセン号」(特集)において、著名な思想家であり、学者である胡適(こ・せき)翻訳によるイプセンの戯曲『人形の家』を掲載し、中国の女性たちに「家」からの自立を訴えた。

イプセンの『人形の家』(1879年)は、いうまでもなく「女性解放」を訴えた作品である。よく知られている作品なので詳述はしないが、弁護士ヘンメルとその妻ノラの「家」における「衝突」とその後のノラの「家出」に至る過程を描いた作品である。主人公ノラは、夫ヘンメルが妻である自分を「ひとりの人間」としてみていないことに気づき、絶望し、最後には「覚醒の家出」をするというあらすじである。

『新青年』で紹介された『人形の家』は、中国の若き女性たちに熱狂的に受け入れられたという。そして、この後、これに触発された若い女性たちの間に「家出ブーム」が起きたという。

興味深いのは、このような「家出」ブームに対して、革命文学の旗手である魯迅が「苦言」を呈していることである。いうまでもなく魯迅も新文化運動の重要な担い

手のひとりであった。1923年12月26日、魯迅は北京女子高等師範学校において「ノラは家を出てからどうなったか(娜拉走后怎样)」と題した講演を行い、次のように語ったという。

ノラは、家を出てからどうなったでしょうか?.....理屈からいえば、ノラには実際、墮落か、家に戻ってくるかの二つの道しかないでしょう。.....彼女は目覚めた心の他に何をもって行きましたか?.....ずばり言って金がいるのです。

女性が家を出るためには、まず経済的基盤が必要である。至極単純なことではあるが、当時はノラの「家出」という行動そのものに注目が集まり、「その後」について言及した魯迅の発言に対しては、ほとんど反響がなかったという(星野幸代「嫦娥は家を出てからどうなったか—魯迅「奔月」再読」より)。

女性の自立に経済的基盤が必要なことはすでに1920年代初頭、中国共産党創立の頃からも認識されるころではあった。しかしながら、中国共産党が執政党となつてから10年近くも経過した1950年代後半、社会主義的改造から急進的な大躍進運動への移行という歴史的文脈において、さらには「女性労働力の生産への動員」という政治的・経済的要請のなかで、改めて1959年に至り、中華人民共和国建国10周年を記念して「万紫千红总是春」というこの作品が作ら

れたということは、「半边天」思想の歴史的展開においても重要な意味を持つといえよう。

なお、毛沢東が「半边天」を提起した1954年から55年にかけて、中国国内においては胡適思想批判のキャンペーンが展開され、ブルジョアジー的なプラグマティズムだとしてその思想の一扫が図られていたことは、建国初期中国の知識人問題をめぐる当時の状況を考える点からも、なんとも興味深い。

◇ ◇ ◇

ちなみに現在の中国の指導者・習近平国家主席だが、「新時代の『半边天』」という視点から次のように語っている。

2015年9月27日、ニューヨークで行われた世界女性サミットにおいて、「中国共産党がなければ、新中国もない」になぞらえて「没有妇女，就没有人类，就没有社会」(女性がいないければ人類はなく、社会もない)と語りつつ、さらに「妇女是“半边天”，全面建成小康社会，实现两个“一百年”目标和中华民族伟大复兴，需要我们共同努力(女性は『天の半分を支えている』。小康社会を全面的に達成し、二つの「百年」という目標と中華民族の偉大なる復興を実現するために我々はともに努力しなければならない)」と訴えた。いわゆる習近平主席が提唱する「新時代中国特色社会主義思想」においても、毛沢東の「半边天」の思想は脈々と「受け継がれている」ようである。

(福岡大学人文学部東アジア地域言語学科)

「女性たちはどう生きるか」

間 ふさ子

今から 60 年前に作られた中国映画「万紫千紅總是春」にはいくつかの家庭が登場する。主婦はいずれも 20 代後半から 30 代にかけて。ヒロイン・王彩鳳の家庭は、工場労働者の夫・劉根発と幼い二人の息子、そして姑の五人家族。準ヒロイン・蔡桂貞の家庭は、經理の仕事をしている夫・鄭宝卿と小学生の息子、それに夫の姪・鄭華が同居する四人暮らし。陸阿鳳の家は、夫は仕事の関係で不在がち、息子と娘が一人ずついて普段は三人で暮らしている。ほかに、共産党員で居民委員会（日本の町内会に近い組織）の責任者である戴さんの家は、息子は軍人なので家にはおらず、息子の妻と二人で暮らしている。

映画は上海の横町に住むこれらの専業主婦たちが、国の要請に呼応して縫製・玩具組立・刺繍などの生産チームを組織し、社会主義建設に貢献しようとする中で起こるさまざまな問題——姑との矛盾や今でいう「モラハラ」気味の夫との対立など家庭内のいざこざから、不良品のクレームや厳しい納期など仕事上の難題まで——をどう克服していくかが描かれている。

1959 年に作られたこの作品は、カラー作品だったこともあって上海電影制片廠の中華人民共和國建国十周年献礼映画 6 作品の一つに選ばれた。この映画が制作された

のはときあたかも大躍進運動たけなわの時期、これまで家に閉じこめられていた主婦たちが社会に出て生産の拡大に貢献するという内容は時宜を得たものであったろう。

本作の監督は沈浮、1940 年代国共内戦期の上海で作られたリアリズム映画の秀作として名高い「万家灯火」(家々の灯、崑崙影業 1948) では監督と脚本を、「烏鴉与麻雀」(からすとすずめ、同 1949) では脚本を担当したベテラン映画人である。脚本は沈浮のほか、瞿白音、田念萱が担当している。この二人は夫婦で、いずれも中華人民共和国成立前から左派の話劇運動に従事しており、1949 年以降活動の場を映画に移していた。主演の張瑞芳も話劇の世界から映画界へと活躍の場を広げ、数々の映画に主演したスター女優であり、同じく大スターの孫道臨が桂貞の夫役でいい味を出している。この映画は、戦前から活躍していた当時の映画界のトップランナーたちによって作られたものなのである。

本作でも、登場する女性たちの個性の違いや、それぞれの家庭の構成員の力関係や考え方の矛盾などが丁寧に描かれ、上海映画第二の黄金期のリアリズム路線を牽引していた沈浮らしさがそこに見える。

まず確認しておきたいのは、この作品に登場する若い主婦のほとんどは、いわゆる「解放前」に学校教育を受ける機会がなく文字が読めない、そのため識字教室に通い、文字や簡単な算数を学んでい

ること、また家事全般から子育て、老人の世話はすべて主婦あるいは女性の仕事というのが当時の社会の常態であったということである。

映画の冒頭部分、彩鳳は朝早くから市場に出かけて買い物をする。帰宅して姑の髪を結ってやり、部屋を片づけ、料理の下ごしらえをし、手洗いで洗濯しながら料理をし、洗濯物を干す。そして家事の合間には台所で識字教室の教科書を読む。これらはすべて朝の作業である。このとき、二人の息子は町内の退職労働者・阿福が他の家の子供と一緒に面倒を見てくれており、その分彼女は助かっているのだが、姑は、子どもは親が自ら世話をすべきだと主張して孫たちが阿福のところへ行くのを嫌っている。彩鳳はさらに、家族が寝静まった夜、当時貴重だったミシンを持っている仲良しの阿鳳の家に行って子どもの服を縫いもする。

姑は昔、夫を亡くしたあと息子・根発を連れ都会に出てきて金持の家で女中をしていた。そこにいたのが孤児の彩鳳である。姑は、彩鳳が女主人に虐待されているのかばい、自分の故郷に逃がしてやった。新中国が成立して工場労働者になった根発が彩鳳と結婚し、三人で新居に入ることができ、二人の孫にも恵まれた。姑にしてみればかつての悲惨な毎日に比べ今は信じられないくらい幸せで、一家五人ゆったり暮らしていける理想の状態なのに、家のことを顧みず外で働きたがる嫁が理解できないし、気に入らない。息子が何か

という嫁の肩ばかり持つのも癪のタネだ。

彩鳳と姑の関係が最も緊張したのは、彩鳳が二泊三日で玩具工場に学習に行くことになった時だ。主婦が三日も家を空けるなんてとんでもないというのが姑の言い分で、息子の説得にも頑として耳を貸さない。しかたなく根拠は母親が席を外した隙に妻を行かせる。

一方、夫と息子、そして夫の姪と暮らす蔡桂貞も早朝の買い物に來ている。彼女の夫は余暇には写生を嗜む教養人だが、典型的な亭主関白である。桂貞は買い物に行くたびに夫から金をもらい、何を買ったのか一々報告しなければならないし、息子に卓球のラケットを買ってやるのも、夫の顔色をみながら切り出すかどうか決めねばならない。夫は彼女が何もできないから自分の保護下にいるべきだと考えていて、彼女が町内の集會に行くのさえ嫌う。桂貞が粘り強く交渉したせいで、生産チームに参加することはしぶしぶ承知したものの、ある日、識字教室で帰りが遅くなった妻に腹を立て家から締め出してしまう。桂貞は戴さんや彩鳳たちに説得され離婚は思いとどまったものの、家には帰らず、夫が出勤したあと自宅の掃除、洗濯、食事の支度をし、それから生産チームで働くという日々を送っている。

彩鳳にとっては姑が、桂貞にとっては夫が、自らが社会とかかわりを持って自立していく際の障害となっているのだが、この障害に

対する二人の女性の対処の仕方はやや異なる。明るく元気で常に女性たちの中心にいる彩鳳は、実は自分で姑を説得できず、問題解決を夫に頼っている。一方、物静かで控えめな桂貞は、周囲の援護射撃を感謝しつつ、あくまで自分で夫を説得しようとした。最初は言葉で、最後は自らの行動で。監督のこの二人の女性の描き分けは実に見事である。

この二人の例からも当時の女性たちが社会に出て働く際にまず克服すべきものとして、「女性は家に」という考え方が根強くあったことがはっきりわかる。映画はこの考え方を明確に否定しており、映画の終盤には、自らの労働によってかちえた報酬を手し、彼女たちに防寒着を縫ってもらった子供たちがしたための感謝の言葉を誇らしげに聞く女性たちの姿が描かれる。このような描写が当時の女性の観客を勇気づけたことは間違いないだろう。

一方で、この映画が作られたのは、戦禍から立ち直りさらに经济建设を進めるための労働力を確保すべく、共産党を信じて社会参加を目指す女性たちを大量に生み出し動員するためでもあった。

このことを裏付けるかのように、この二人の奮闘を援護するベテラン女性共産黨員・戴さんが配置されている。彼女は文句を言いに来た彩鳳の姑に、若いものを自分たちとおなじ目に遭わせていいのかと語りかけ、妻を責める桂貞の夫には、非を認め民主的な家庭を作

るべきだと手紙で諭す。さらには、ミニカーの組立で不良品を出し弱気になる彩鳳に、自ら高みを目指さねば実力はつかないと励ましもする。

彼女は言う。「生産組を維持することは生産技術を高めることでもあり、同時に人々の古い考えを改めることでもあるの」「中国にのしかかっていた三つの山(帝国主義、封建主義、官僚資本主義)は倒されたけど、私たち女性の前にはまだたくさん小さな山があってそれを動かしていかなければならないのよ」「世の中には女性の力を信じようとしない人がまだまだいるけど、私たち自身が自分を信じていることができれば、女性の完全なる解放なんて絵に描いた餅でしかないわ」おそらくこれらの言葉は当時の女性たちの心に甘露のようにしみ込みに違いない。そして、このように語って聞かせる戴さんという形象を通して、親しみやすく信頼できるリーダーとしての共産黨員のイメージが観客に強く印象付けられたことだろう。

さらに映画では集団食堂が運営され、保育園が整備されて、女性たちが食事の支度や子育てから解放され、生産に専念できる体制が取られているという設定になっている。これらの描写もまたこの映画がいわゆる政治宣伝の役割を担っていることを示していると言える。

映画の最後、職場でも家庭でもみなを尊敬を勝ち得た蔡桂貞は、ある行動に出る。それを目にした

彩鳳もまた彼女の行動を称賛する。

このシーンに筆者は長らくひっかかっていた。なぜならば桂貞の行動は、せつかく自力で勝ち取った自らの地位と尊厳を、あたかも「だれか」が恩恵として与えてくれたものに無効化してしまうように思えたからだ。

とはいえ、今の感覚でそれをあげつらっても詮無い話ともいえる。ある若い中国人は、最初は違和感があったが、見ているうちに、当時の女性たちには確かに毛沢東を代表とする共産党が自分たちを解放してくれたという気持ちがあったのだと思うようになった、と語ってくれた。確かにこの映画はある側面からあの時代を反映していると言えらる。

一方でこの作品が人と人の交わりの中で生じるさまざまな葛藤や共感という、時代や地域を超えた普遍性を持っていることも確かだ。彩鳳が、桂貞が、自らの理想とする生き方を求めて悩み奮闘する姿は、今の私たちに大いに通じるものがある。60年前と同様、「女性たちは如何に生きるか」という問いは中国においても日本においても、今なお有効なのだ。

(福岡大学人文学部東アジア地域言語学科)



「万紫千紅総是春」をめぐる

甲斐 勝二

この映画の終わりの部分、毛沢東の肖像画が張り出され、毛沢東の指導のおかげで社会が変わり、女性の社会参加も進んだ事を示唆する部分がある。映画の制作者としては、恐らくその後に出てくる場面、つまり女性たちの集合写真を赤ちゃんに見せるところの方が重要な場面として考えていたと思う。しかしながら、毛沢東の肖像画が画面に出てきたときには、客席から拍手が湧いたのではないかと想像する。今となっては中国人の鑑賞者にさえ笑いを呼ぶかも知れない突然すぎるこの場面を見ながら、日本の戦後との違いを考えてみた。以下は、素人の妄想である。

この映画が作られたその頃、日本でも同様に女性の社会進出が唱えられている。仕事は男・家事は女性という考えが戦前からまだ残る当時、石垣りんが「私の前にある鍋とお釜と燃える火と」の詩のなかで、これまでの炊事を女性の大切な仕事として認めつつも、社会への関心を勧めて以下のように述べていた。教科書にも載せられたことがあるそうだから記憶されている方もいるだろう。

……

炊事が奇しくも分けられた
女の役目であったのは

不幸なこととは思われない、
そのために知識や、世間での地位が
たちおくれたとしても おそくはない
私たちの前にあるものは
鍋とお釜と、燃える火と
それらなつかしい器物の前で
お芋や、肉を料理するように
深い思いをこめて
政治や経済や文学も勉強しよう、
それはおごりや栄達のためでなく、
全部が
人間のために供せられるように
全部が愛情の対象あって励むように。

「万紫千紅総都春」でも同様な視点が語られる。つまり、奥様方への生産活動への参加者募集時に、地域の主任が、「生産活動に携わるからといって家事をおろそかにして良いわけではない」と語り、また別の場面では「これからの女性をかつてのように寵にくくりつけておいてよいのか」と説いていた。第2次世界大戦が終わり一定期間が過ぎたころ、日本でも中国でも、女性の家庭内からの開放や社会参加は重要な課題として認められていたのである。この映画の場合、女性の社会参加は中国の「社会主義の建設」による自分たちの幸せのためであり、石垣りんの場合は「人間のため」とされているのが、日中の当時の時代背景を踏まえているように思われたのである。

さて、このような時代であれば日本でも同様の映画も作り得たのではないか、つまり家庭の主婦たちが何か仕事を始め、各種の家庭内の問題を解決しながら自分たちの

仕事を軌道に乗せ、女性の社会的
位置づけが認められるような映画
を撮ることも可能だったろうと考
えた。或いは実際にあったかも知
れないが、もし撮るとすれば、日
本では最後の場面はどうなったで
あろうかと考えを進めてみた。

中国映画の場合、確かに検閲上
の優遇や宣伝の効果というねらい
も無視できないけれども、このよ
うな社会改革に結びつく映画の中
に毛沢東の肖像画が出てくること
は十分ありうることだとおもう。
なぜならば、「革命」の思想を伝統
的にもつ中国の場合、毛沢東が率
いる共産党による政権の奪取と建
国は、王朝の交替に類似するもの
で、新しい社会の創始者たる人物
として毛沢東が象徴的に登場し賛
美されるのは、不思議には思われ
ないからだ。では、もし共産党が
国民党に負けていれば、そこに張
られる肖像画が国民党指導者の蔣
介石だったかという、それは難
しそうだ。国民党が共産党に内戦
で勝ち、中国の政権を握っていた
場合、女性の社会参加が共産党政
権ほど早く提唱しえたとは思えな
いからである。当時に女性の社会
参加を積極的に描きえたのは、や
はり共産党による政権の奪取があ
ったからこそだと思われる。従っ
て、その指導者である毛沢東の肖
像画が張られてそれが示唆された
とき、たとえそれが大躍進の大失
敗の状況の下であっても、観客の
中には、我が意を得たりと拍手す
るものも多かったであろうと推測
したわけである。

これが日本の場合だとどうなる
だろうか。恐らく創業に苦心した
女性の集合写真を赤ちゃんに見せ
る一番最後の場面は同様に提示し
えても、毛沢東の肖像画が張られ
る場面にあたるものはかなり見つ
けるのが難しいのではないかと思
われた。というのは、日本の場合、
敗戦後、大いなる反省の上に立ち
ながらも、新生日本として、また
民主国家として敗戦によって導か
れた新しい国家を思想的にも政治
的にも指導しえた人物や政治団体
は結局現れていないと思われるか
らである。石垣りんが「人間のた
め」一般を表に出すことになった
のもその状況を反映するのだろう。
その結果、あるいはそれが原因な
のかも知れないが、戦前の政治情
況がそのまま底辺にぼんやりと続
いてきていて、いまでは先祖返り
もはじまっているような気さえす
る。だからといって、妙な独裁者
が出てこられても困るのだけれど
も、その辺での解決の曖昧さが常
に今でもあちらこちらで問題を導
いているのではないかと妄想は進
む。

いずれにせよ、もう既に五十年
以上前の話だから、今更何を言っ
ても後の祭りに違いない。とはい
え、当時の映画や詩が期待したよ
うにその後の社会が動いたかどう
か、それは考えてみても良い問題
である。昔の映画をみることの面
白さは、内容の面白さはもちろん
のこと、そんなところにもあると
思う。

(福岡大学人文学部東アジア地域言語学科)

「やばい」の中国訳は、 やばかった

謝 平

少し前に、友達に「食べ物がめ
っちゃ美味しいとき」や「超イケ
メンを見かけたとき」に言う「や
ばい」は中国語で何と言いますか
と聞かれましたが、ピッタリ合っ
た中国語が思い浮かびませんでした。
今回の字幕制作の短編映画『き
らわないでよ』は、中学校が舞台
になっているので、若者言葉が多
く用いられています。セリフの中
に「やばい」という言葉が頻繁に
使われており、中国語字幕制作の
時に私たちを悩ました。

まずは「やばい」の意味を辞書
で調べてみました。『大辞林』では、
「やばい」について次のように記
述されています。

- ① 身に危険が迫るさま。あぶな
い。「一・いぞ、逃げろ」
- ② 不都合が予想される。「こ
の成績では一・いな」
- ③ 若者言葉で、すごい。自身の
心情が、ひどく揺さぶられて
いる様子についていう。「こ
の曲一・いよ」〔若者言葉
では「格好良い」を意味する
肯定的な文脈から、「困った」
を意味する否定的な文脈まで、
広く感動詞的に用いられる〕

辞書で記述されているように、

「やばい」は、マイナスの意味だけではなく、プラスの意味も表します。しかし、『日中辞典』では、マイナスの意味の中国語訳しか載っていません。また、これらの日本語の表現を中国語に訳してもすべての状況を網羅することができるといってわけではありません。例えば、冒頭に挙げた「食べ物おいしい」場合や、「イケメンに対して言う」場合では用いられず、「すばらしい」、「いいね」と言ったニュアンスを表す“超赞!”、“太赞了!”や“太好吃了”(「とてもおいしい」)、“帅呆了”(「超カッコいい」)のように形容詞フレーズを用いて具体的な意味を伴って表すしかありません。

『きらわないでよ』では以下ののように、「やばい」が六つの場面で十一回にわたって用いられています。字幕制作の参加者が一緒にシチュエーションを確認し、文字制限も考慮した上で、中国語の字幕を推敲しました。

(1)-1 真利江：誰？知ってる
 -2 愛美： 分かんないけど、超かっこ良くない？
 ①やばい②やばい

中国語字幕：不认识 不过好帅啊
超帅!

(2) -1 真利江：てかさ、さっきのノダ③やばくね？
 中国語字幕：今天那个野田有点
儿太严重了吧

-2 愛美： うん思った。何か相変わらず安定してるよね

(3) -1 生徒： 止めなよ 先生呼んでくる

-2 真利江：何か喧嘩してるね

-3 真利江：ノダ④やばくね

中国語字幕：野田要来真的了

-4 エリ： ⑤やばいね

中国語字幕：要出事了

(4) -1 真利江：⑥やばくないそっちももっとこっち来たら

中国語字幕：真是 走过来一点
 儿吧

-2 愛美： ⑦やばい もう⑧やばい 本当靴⑨やばい びちょびちょだもん

中国語字幕：惨了 惨了 鞋子不行
了 湿透了

(5) -1 生徒： なんでここにあるんだ

-2 生徒： ⑩やばくない？机の中に入ってたんでしょ？

中国語字幕：天哪 在桌子的抽屉
里发现的吗？

(6) -1 生徒： これでヤルつもりだったのおまえ

-2 生徒： まじで

-3 生徒： ⑪やばい

中国語字幕：真没想到

上記の六つの場面において、(1)はプラスの意味を表しますが、(2)～(6)はマイナスの意味を表します。(1)の①と②は、産休になっている景子先生の代わりに副担任を担当する先生が格好いいということに対して言うときの「やばい」で、(2)の③は野田悟が吃ることに対して嫌な気持ちで言う「やば

い」です。(3)の④、⑤は、柴田の嫌がらせに対して興奮している野田のことについて言っています。

(4)の⑥は、愛美の歩いていると雨で地面が川のようになることに対して言っており、⑦～⑨は、靴が濡れている状況に対して言っています。(5)の⑩と(6)の⑪は、野田の机の中に水着があることに対して言う「やばい」です。

以上の「やばい」は、それぞれのニュアンスも異なりますので、中国語に訳す際は、発話場面を把握し、その具体的な状況に応じて表現を考えなければなりません。また、日本人にとっても、それぞれの場面に対する理解が異なる場合があるため、翻訳した中国語は、絶対に正しいとは言えないのです。

『きらわないでよ』は「やばい」以外、「すごい」や「大丈夫」などの若者言葉もあります。特に野田に対して好意を抱いているエリのセリフに「すごい」が連発した場面の訳も難しかったです。

(福岡大学人文学部東アジア地域言語学科)



字幕の役割について

種村理恵

また今年もこの季節がやってきた。毎年参加させていただいているが、毎回違った作品に出会い、新しい発見があり、いつも楽しませていただいている。

私は昨年から今年にかけて台湾に留学する機会があった。台湾では映画はもちろん、テレビや舞台まであらゆるものに字幕が使われており、字幕を目にする機会は頻繁にあった。ひとえに字幕といってもその役割にはさまざまなものがある。台湾においてテレビや舞台で付けられている字幕は話されている内容をそのまま文字化している場合が多い。これは台湾には公用語である中国語をはじめ、台湾語、客家語など複数の言語が混在し、多言語化しているためである。

しかし一般的に字幕とってまず考えられるのは、海外の映画やドラマを観る際の翻訳された字幕であろう。この字幕成果発表で付けている映画字幕もそれにあたる可言える。

翻訳された字幕の場合、起点言語から目標言語へと直訳で全てを表現することは難しい。字数の制限があるからである。いかに決められた字数の中で多くの情報を伝えられるかが、字幕制作の難しいところである。その中でも特に『万紫千紅總是春(女性たちの紅い春)』のような中国の少し古い映画など

の場合、時代背景や社会制度、文化的要素など、映画の内容に関する間接的な状況も押さえないとまらない。さらには男性、女性、または年寄り、若者による話し方でも差別化し、呼びかけや語尾を変える工夫をすることで、関係性を示したり、口語的要素を含んだりしている。今回の字幕中の呼びかけでひとつ例を挙げるとすれば、「戴妈妈」を「戴おばさん」や「戴さん」などと呼ぶ人によって呼び分けていることである。このように分かりやすく、的確な表現で字幕を付けなければならないが、その難しさの中に字幕付けの面白さもある。

また、翻訳された字幕においては一般的に擬音語や感嘆詞、言い淀みなどは省略されることが多い。それは前述の台湾における字幕のように発話内容を文字化するのは違い、翻訳された字幕においては完全なる口語ではなく、ある程度文章語を用いているからである。そのためこの字幕成果発表においても、これまでの映画では擬音語や感嘆詞、言い淀みなどはほぼ省略してきた。しかし、今回の『きらわないでよ(別讨厌我, 好吗)』では、登場人物の一人である野田悟が吃音症で、発話時にことばが連続する場面が多々ある。今回はその中国語字幕をどうするかという問題があった。普段は省略されるどころだが、この映画ではその話し方もストーリーのポイントになっているからである。どのように字幕を付けたか、以下にい

くつか例を挙げる。

- (1) ノ、ノ、ノ、ノダ
— 我 我 叫 野
サ、サ、サトルです
— 野 野田 野田 悟
- (2) け、け、け、結構
— 其 其 其 其实
い、いっぱいいる
— 有 有 很 很多
み、み、み皆
— 大 大 大 大家
き、気づかないだけ
— 没 没发 发现而已

「野田悟です」と自己紹介する時、中国語の場合「我叫野田悟(私は野田悟と申します)」となる。中国語では必ず主語を言うこと、日本語と語順が異なることなどの理由から (1) のような字幕を付けた。名字の部分は「ノ、ノ、ノ…」と言っているところを「我我…(私 私…)」と繰り返し、名前の部分は「悟」と1文字のため、名字である「野田」から表現し、「野 野田 野田 悟」とした。(2) においても中国語に訳した最初の文字を重ねることで発話の様子を表している。

このように字幕にはそれぞれの役割があり、適宜字幕を付けなければならない。映画の内容とともに、どのような字幕を付けているかにもぜひ注目していただきたい。

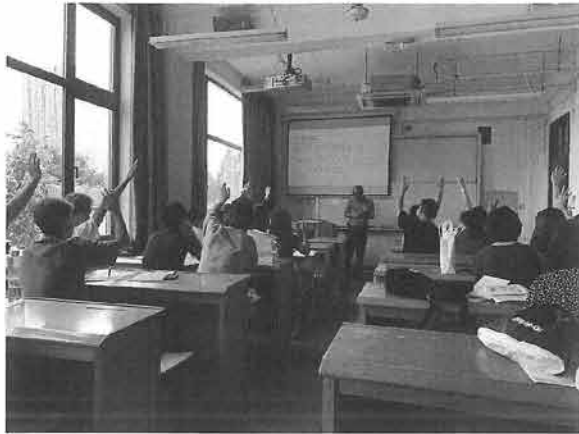
今回もこのように参加させていただき、この場を借りて先生方に感謝を申し上げたい。

(九州大学大学院地球社会統合科学府院生)

☆☆ 上海研修旅行 ☆☆

生徒40名、教員4名、計44名で
9月9日から12日の4日間、上海财经大学訪問と
上海見学をしました。

⇩ 上海财经大学と交流授業の様子 ⇩



日本人の学生と中国人の学生で
グループに分かれて
夏目漱石「坊っちゃん」の
朗読大会をしました。

皆で一緒に「嫌わなideよ」を観賞し、
グループに分かれて意見を出し合
いました。



映画の内容はもちろんのこと、
日本と中国の違いについても
意見を出し合い、お互いの文化
についても知ることができていい
機会になりました。

アンケート結果

- ① 映画の字幕を見て、どう感じましたか？よくわからなかった部分があったら教えてください。

对中文字幕有何感想？有否感觉不贴切的地方？

- 分からなかった部分はない。
- ほとんど中国語の意味に合っていると思う。
- いいと思う。
- 最初字幕を見たとき、中国人が翻訳したのかと思った。福大の学生たちが作ったと知り、本当に驚いた。わからない部分がないだけでなく、本場の中国語だと思う。
- 全体としてはよかったが、いくつかの部分で不自然な部分があった。

- ② 映画の中で、共有したり、腹が立った人物がいたら、理由と一緒に教えてください。

影片中的人物最有共鸣的是谁？最让你觉得气愤的是谁？说说理由。

- ない
- 主人公の女の子に共感した。もし自分のクラスメートをいじめられたら自分で止めないと思うから。
- 共感した人物はいない。最も腹がたったのは悟をいじめた人。理由は、彼らが言葉で攻撃したり、暴力をふるったから。
- 共感した人物はいない。腹が立ったのは先生とデートしたい女の子。
- 野田に共感する部分があった。いじめられる経験はないが、野田のタイプは集団に打ち解けられない全員を代表していると思う。その無力感と孤独感は耐えられない。最も腹が立ったのも野田だ。男の子として、苦境をのりこえなければいけない。どもるせいで、自分のことを主張するのを放棄すると、悪循環に陥ると思う。
- 腹が立ったのは野田をまねてはやした人。人の弱いところをはやすのは本当に幼稚で悪いことだ。ひとには皆弱いところ、コンプレックスがあるから。

- ③ 映画は日本のいじめ問題が描かれていますが、中国のいじめ問題も同じようなものですか？

电影所涉及到的欺负同学的现象，中国也有吗？

- 中国は小学校ではいじめがあるが、いたずら程度である。中学や高校では少ない。
- 中国でも同じ問題があるが、それほど厳しい状況になっていない。
- 中国にもいじめはあるが、自分の周りにはないと思う。
- 私がいた学校には、学生たちの間に衝突や摩擦はもちろんあったと思う。日本と違って、学生たちは平和にこの矛盾を解決する。そして、皆弱者を守っていた。わたしの高校にいじめはなかった。

④ 中国の先生たちはいじめ問題にどのように対処していますか？

同学之间若有欺负现象，中国的老师一般会怎么处理？

- いたづらをする人を叱ったり、学生の両親と相談したりする。
- 一般的には生徒の家族を学校に呼んできて事情を説明したり、またクラスでみんなに注意したりする。
- ただの遊びだと思って無視する先生もいるし、熱心に親と相談する先生もいる。
- もしいじめがあったら、先生たちは必ず両方の親を学校に呼んできて、互いに謝ったり、交流したりして、それにクラスまたは学校で二度とやらないように注意する。
- 先生による。

⑤ もし近くにいじめに遭っているクラスメートがいたら、あなたはどうしますか？

如果你周围有同学被欺负，你会怎么做？

- 遭ったことがないのでどうするかわからない。
- 状況を把握してから先生に助けを求める。
- 具体的に状況を聞いて、いじめられたクラスメートを助けて、先生の助けを求める。他の人に助けをもらう。
- 注意する、先生に伝える。
- 助けて、いじめをする人を止める。
- できるだけ力になりたい。本人が本当に現状を変えたいなら。
- その子から離れる。

⑥ 自分がエリだったら最後に本当のことを話せますか？

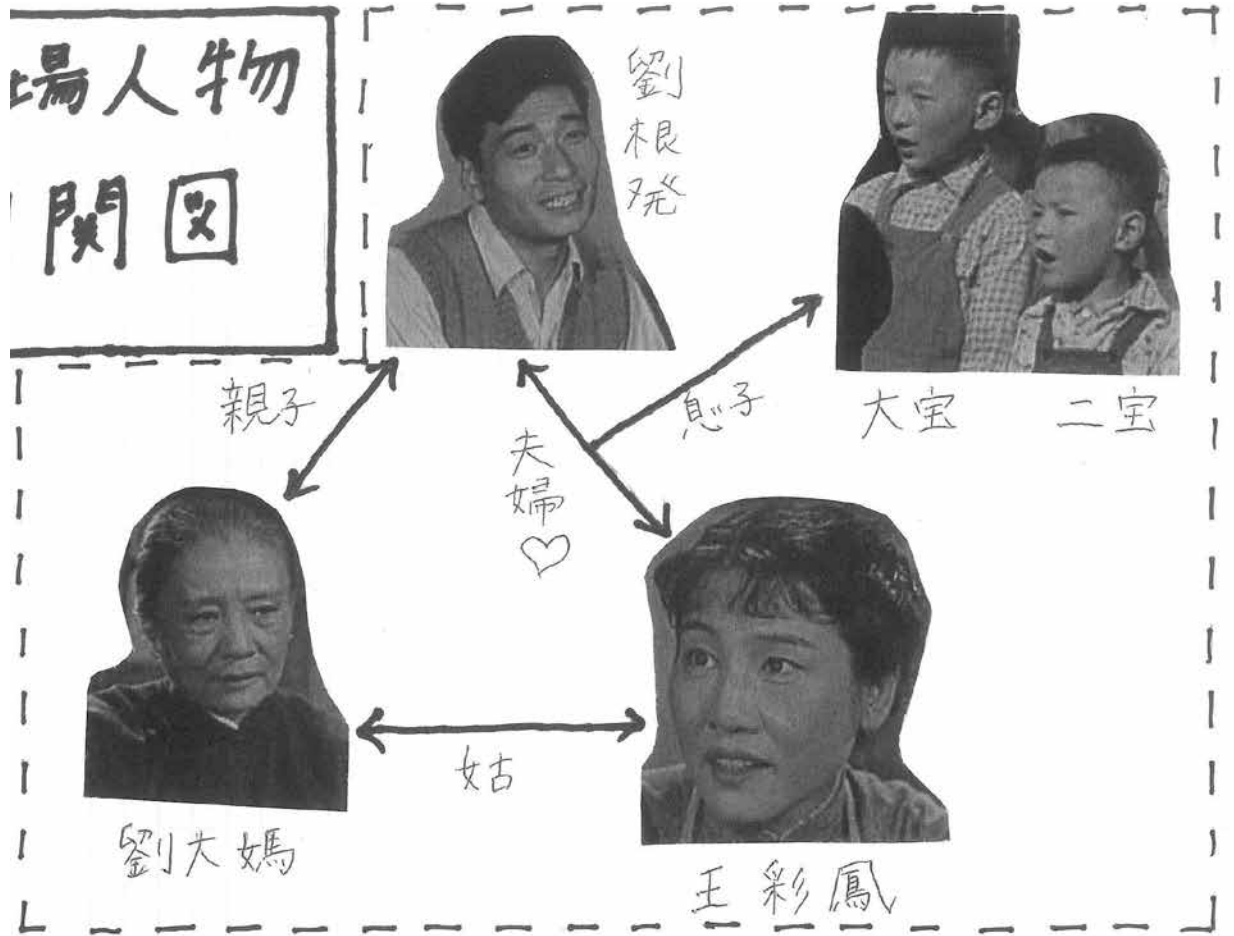
如果你是惠理的话，最后会说出真相吗？

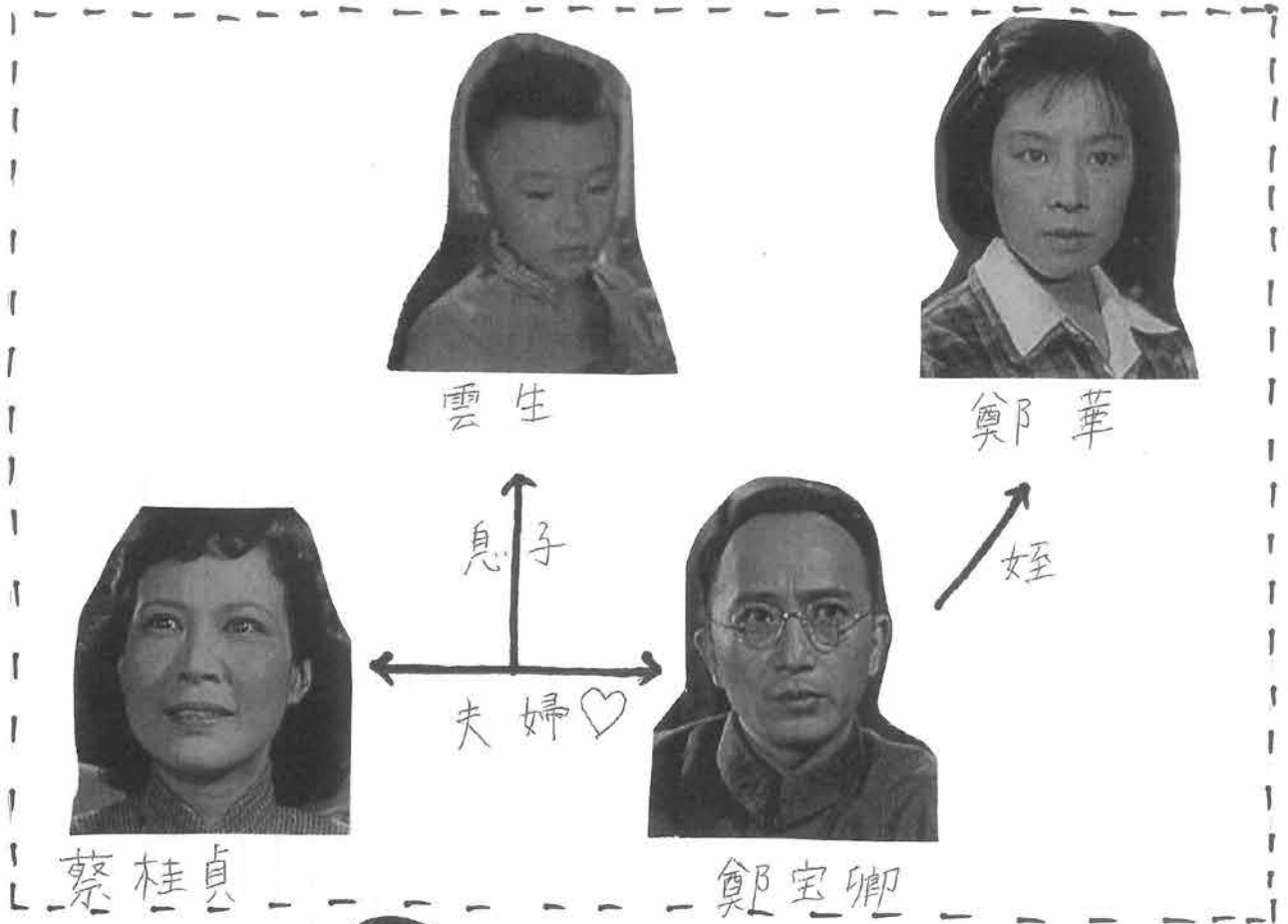
- 話せないかもしれない。恥ずかしいから。
- 話せる。
- 多分彼女と同じことをするかもしれない。認めると自分に非難が向くから、逃げてしまうと思う。
- 言わない。

⑦ エリは悟をどう思っているとあなたは感じますか？

你觉得惠理对野田悟抱着什么样的情感？

- 好きだが、勇気がないので気持ちを伝えることができない。
- 同情でもあり、恋でもあると思う。
- 好きという感情と陰ながら悟を守りたいという思い。
- 頭がいい野田への尊敬と、どもる野田への同情心。抵抗しない野田へ歯痒く思う気持ち。
- 恋だとはあまり言えないと思う。弱い人を見ると同情をするのは自然な現象だ。





戴おばさんの
息子の妻



薛翠英

姚月仙



施設の
担当者

玩具工場の
李さん



映画字幕勉強会参加者の感想

4年

田口 祐希

1年生の合宿から参加してきた字幕勉強会への参加も今年で最後になりました。1年生の時は先輩方の活動を見ているだけでしたが、この活動を通して中国語の様々な表現を学ぶことができました。少し昔の映画なので、今とは違う表現を見つけることも楽しかったです。今年には字幕付けをした日本映画を上海で中国人学生に見てもらい、一緒に映画について話し合いました。いじめ問題や登場人物に対する考え方は中国と日本で違うことがたくさんあり、興味深かったです。また、大部分が日本語を学んで1年と少しの中国人学生が、日本語を使って自分の意見をはっきり伝えられていることに驚きました。自分も現状に満足せず、中国語をもっと理解できるように勉強していきたいと思います。最後になりましたが、字幕制作という貴重な機会を与えて下さった先生方、OBの皆様、一緒に活動してきた皆さん、本当にありがとうございました。



4年

増永 奈央



「万紫千紅總是春」は、中国の女性たちが、様々な困難にぶつかりながらも社会主義建設に貢献しようと奮闘する話ですが、勉強会の中で当時の様子を先生方から学び、また生徒同士でも意見を交わしながら映画への理解を深めていき、私の中で非常に興味深い作品となりました。今回の勉強会を通して、「この字幕が自分の中でベストなのに文字数がオーバーしてしまう!悔しい!」という気持ちになったことが多々あり、限られた文字数の中で分かりやすい字幕を付けることの難しさを感じました。この字幕勉強会は自分自身の中国語能力を向上させるだけでなく、映画そのものへの関心を高めてくれたと思っています。

4年

渡辺 巧

今回は字幕合宿に少しですが参加し改めて中国語を日本語へ訳すのがどれだけ難しいかを感じ、映画の中での会話がスムーズに進むように直訳せず意識するため、その場面に合わせて臨機応変に対応する必要がある、その場面に合った日本語の訳を生み出すのはとても大変でした。しかし、今年も字幕作りに関わる事が出来て中国語の難しさを感じただけでなく、中国語に触れる楽しさを改めて感じ、中国語へ向き合う良いきっかけになりました。



4年

太田 梨沙

キラーン ♪



かっこつけてみました!

私は去年参加していなかったので、日本の映画に中国語字幕を付けるのは、今回が初めてでした。苦戦しました。私の知っている中国語の表現が限られているからです。私は普段中国語で話す時、細かいニュアンスを無視して、相手に伝えなければならない最小限のことが伝わるようにしか伝えられません。なので、人の感情や描写が細かく描かれている映画の台詞を母語ではない言語に訳すことは本当に難しかったです。また、上海の学生との交流では、『きらわないでよ』を上海の学生に見てもらい、感想やいじめについて話し合いました。ナナフシがアリに食べられている場面や、最後の野田悟君の自己紹介の場面についていろいろならえ方があり、この映画が私たちに訴えていることは何か考えさせられました。先生方、応援して下さいの方々、またこのような機会を作って下さってありがとうございました。

4年

山田 実奈

映画字幕合宿には毎年参加していますが、学年を重ねるにつれて理解できる部分が増え、楽しく作業ができるようになってきました。中国語の映画に日本語字幕を付ける時は、早口の中国語に1秒4文字の字幕を付けなければならない、言葉選びに苦労しました。反対に、日本語の映画に中国語字幕を付ける時は、不自然な中国語にならないように気を付けました。今回の「嫌わないでよ」という作品は、解釈を観客に任せるといふ邦画独特なものがあり、先生方と、メンバーでどう解釈するか沢山話し合いました。また、今回行った上海研修でも、この映画について中国の学生とLTDし、意見を深めることができたと思います。私は今年4年生で、この勉強会に参加できるのが最後なのでとても寂しく感じます。今回、指導していただいた先生方、先輩方、メンバーみんなに感謝します。ありがとうございました。卒業しても中国語学習を続けていきます!



食べるの
がイェキ♡

很像吗??
(似23?)



4年

満永 みなみ



モイモナリサ!!?

字幕会に参加して今年で3年目になりました。今年新しく日本語教師の勉強を始めたこともあって、活動にあまり参加できなかったことがとても残念です。でも、参加した夏合宿での先生方やみんなとの作業はやっぱりすごく楽しかったし、大学生活最後の夏に良い思い出ができました。3年前字幕会に入った時、中国語が得意な訳でもない私は正直不安しかありませんでしたが...こんな私を温かく迎えてくださった先生方や先輩方、メンバーには感謝しかありません。特に相談を開いてくださる先輩や先生方がいてくださったおかげで今の自分があるなど実感します。今年の作品はなんとか最後までですが作業に関わることができました。楽しんで見ていただけたら幸いです。

3年 渡邊 瑞葵

私は商学部で今年から中国語の勉強を始め、謝平先生に声をかけて頂き今回初めて中国語の字幕勉強会に参加させて頂きました。中国語が全く分からない中、東アジア学科の方たちと勉強するのは不安でしたが先生方、先輩、同級生と皆さんが快く迎えてくれて安心しました。字幕の勉強をしていく中で中国語に限らず、外国語を母国語に変えるには言い回し方や、意味は同じでも違う言葉など日本語を知ることが大切だと感じました。先輩方が中国語→日本語、日本語→中国語どちらもたくさん訳のアイデアをだしてとても感心しました。これからも中国語を習得できるように頑張ります。このような機会を頂き、ありがとうございました。



ラフボーが好キ♡
サイフォンはなくて

3年 沖田 啓吾



中国映画に字幕付けしてみて、決められた文字数の中で納めなければならないことがとても難しく直訳ではなく意識で作らなければならないことが多く大変でした。

韓国に留学中!



3年 原田 優季

字幕作成に参加したのは2年ぶりでした。前回参加したのは1年でした。前回参加した後に中国語がもっとわかるようになったらできることが増えるかもしれないと思っていましたが、できることが増えた反面もどかしい思いをすることが多かったです。中国語から日本語に翻訳する作業で、1つのセリフに多くの情報があることに驚きました。字幕を作るときに、字数に合う表現を見つけることに苦労しました。今回の字幕の作成で感じたことは自分自身の日本語の表現の引き出しが少ないことです。日本語の表現力は外国語の表現力につながるのではないかと思います。今回の字幕作成はこれからの中国語学習の課題が見つかったものになりました。



わーい

ハッピー

3年

平野 智菜美

ちねみ〜ん!!



私は去年もこの合宿に参加しました。去年のように毎週の普段の字幕の授業に参加することはできませんでしたが、合宿には参加することが出来ました。決まった文字数で日本語を考えるのはとても難しいと思います。でも先輩方や先生方がアイデアをたくさん出しているのを見て、こういう表現があるのか、ととても参考になったし、こういう機会はなかなかないので勉強になりました。喋る登場人物によって喋り方を変えたり表現を変えたり、字幕をつけるためにいろんな注意を払って、細かく見ていくのはとても簡単なことではないと思います。1人ではなくみんなで話し合うからこそいい作品を作っているのだと思いました。夜は友達や先輩方とお話出来て、ためになる将来の話もできました。私にとって貴重な合宿になりました。

中国に留学中!!

3年

廣田 涼菜



去年も字幕作業に参加しましたが、今年は留学していることもあり、あまりたくさん関わることは出来ませんでした。しかし、去年は必死に直訳して、ただ中国語と訳の長さを同じにするという作業に苦戦していたのが、訳をするだけでなくその時の場面に合わせて言い回しを変えてみるということに慣れてきていたと感じます。また、留学してからよく聞く言葉や表現が少しですがわかるようになり、字幕制作にも活かせるのではないかと思います。教科書にはないような知らない単語もたくさん出てきますが、その分とても勉強になるので、これからもこの経験を自分のものにしていきたいなと思います。



Dà jiā xīn kǔ le!
大家辛苦了!

(皆さん、おつかれ様でした!)

ちりりっ!!



13:00～13:25 きらわないでよ《別讨厌我, 好吗》

加藤大志監督 2014年作品 福岡インディペンデント映画祭2015グランプリ

同じクラスのエリと悟。そのしゃべり方のせいでイジメにあう悟。
悟の事が気になるエリだがみて見ぬ振りをしてしまう。
日々の生活でも周りに合わせ自分を偽ってしまうエリ。
ハンディキャップを気にする事なく好きな生物を追求する悟。
酷くなるイジメ。
偽る事に嫌気がさし意を決し悟の自宅へと向かうエリだったが…。

日本語音声
中国語字幕



13:25～13:50 学生による活動報告

13:50～15:45 万紫千紅總是春（女性たちの紅い春）

監督：沈浮 脚本：沈浮・瞿白音・田念萱 主演：張瑞芳、沙莉、陳立中、孫道臨
上海海燕電影制片廠1959年作品

上海の横丁に住む若い主婦たちが、自分たちも家庭から出て社会主義建設に貢献できる仕事をしようと張り切っている。そんな彼女たちの前に立ちはだかるのは、夫の不理解、姑の干渉、不良品のクレーム、厳しい納期などなど。女性たちは自信喪失しそうになりながらも、力を合わせ、一つ一つ困難を乗り越えていく。大躍進時期に作られたいわゆる「主旋律映画」だが、ここに描かれた女性たちの家庭における地位や社会進出にまつわるエピソードの数々は、21世紀の日本社会に生きる私たちにまだまだなじみが深い。

中国語音声
日本語字幕



字幕制作：「きらわないでよ」（学生）田口祐希・増永奈央・太田梨沙・山田実奈・奥野美怜・平野智菜美・廣田涼菜・渡邊瑞葵、（卒業生）種村理恵、（教員）謝平・甲斐勝二・大澤武司・間ふさ子／「万紫千紅總是春」（学生）田口祐希・増永奈央・太田梨沙・山田実奈・廣田涼菜・奥野美怜・渡邊瑞葵・沖田啓吾・平野智菜美・原田優季・満永みなみ・渡邊巧、（卒業生）種村理恵、（教員）甲斐勝二・謝平・大澤武司・間ふさ子

リーフレット制作：田口祐希・増永奈央・太田梨沙・山田実奈・渡邊瑞葵・間ふさ子

●古い作品のため、映像・音声の状態が良好でない部分もございます。あらかじめご了承のほどお願い申し上げます。

2019年(令和元年)9月26日(木曜日)

記

宣

新

聞

日中の映画 学生が字幕 天神で28日、2作品上映



字幕を制作した映画について話し合う福岡大の学生ら

中国語を学ぶ福岡大の学生が字幕をつけた日本と中国の映画2作品が28日午後1時から、福岡市・天神のエルガーラホールで上映される。

作品は、日本語字幕をつけた中国映画「万紫千紅 是春(女性たちの紅い春)」(115分)と、中国語字

幕をつけた日本映画「きらわないでよ」(25分)。「万紫千紅 是春」は1959年の作品で、上海の若い主婦たちが夫の不理解などを乗り越えながら社会進出する姿を描く。「きらわないでよ」はハンディキヤップがあつていじめにあう男子中学生と、彼が気になる同級生の女子生徒を描き、2015年の福岡インディペンデント映画祭でグランプリを受賞した。

同大人文学部東アジア地域言語学科では毎年、有志の学生が字幕の制作に取り組む。今年は、学生14人が学科教員と意見を出し合いながら字幕をつけた。映画を見てセリフを文字にし、それを翻訳。限られた字数で場面の状況や登場人物の気持ちや伝わる言葉を考えたという。

4年生の山田実奈さん(21)は「ちょっとしたニュアンスを表現するのに苦労した。楽しんでもらえたらうれしい」と話し、担当する間ふさ子教授は「学生たちにとって、生きた中国語を学ぶ機会となった。多くの人に見てほしい」と呼びかける。

学生たちは9月中旬に研修で上海を訪れ、日本語を学ぶ中国人学生に「きらわないでよ」を鑑賞してもらい、映画のテーマについて意見をかわした。上映会では、日中の受け止め方の違いなども発表する予定。

入場無料で予約不要。問い合わせは同大の間研究室(092・871・6631、内線4372)へ。